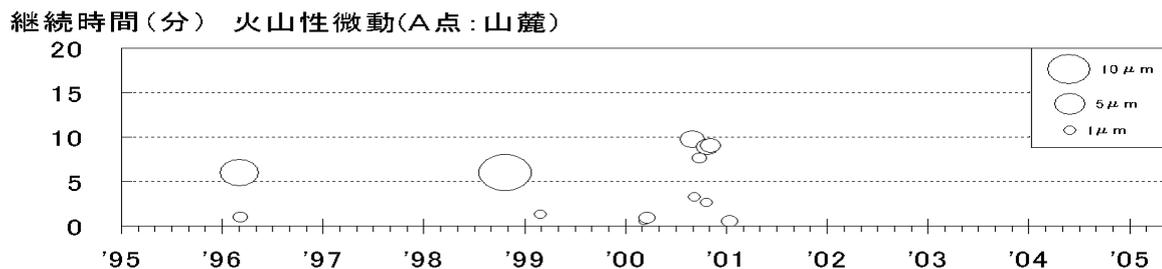
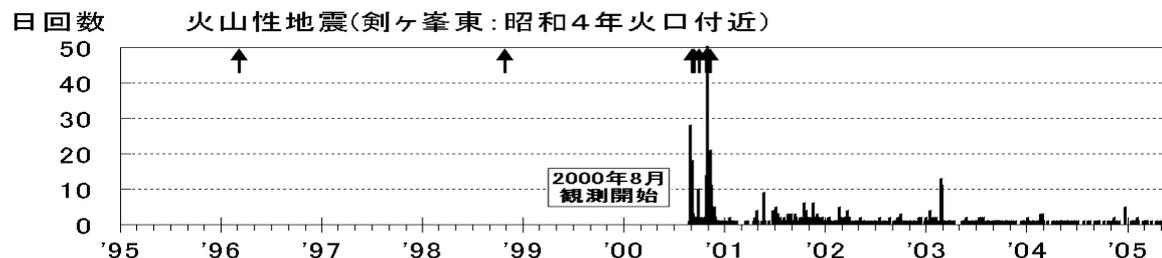
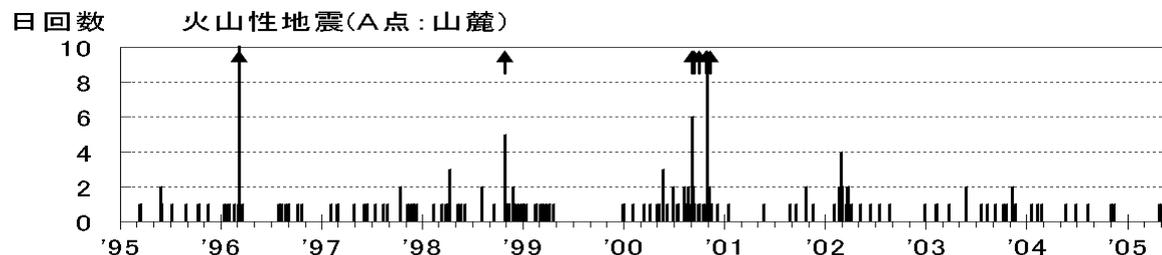
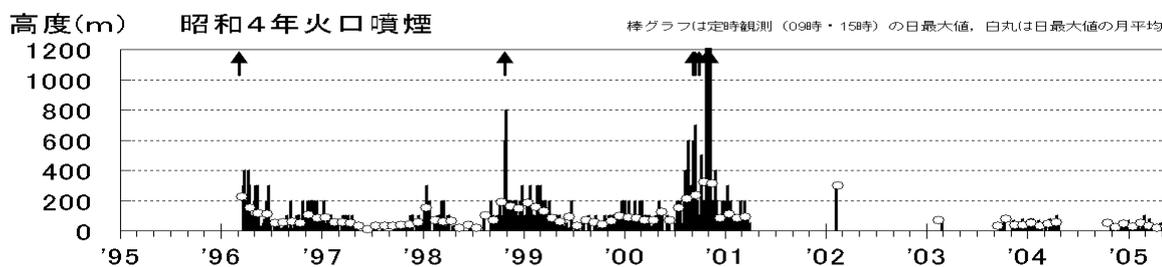
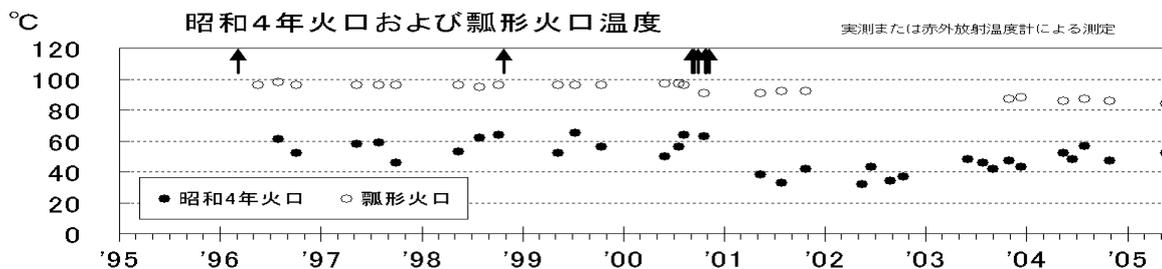


北海道駒ヶ岳

1 概況

16~20日に実施した調査観測では、各火口の状況に変化はありませんでした。火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003年9月以降見られている弱い噴気は引き続き観測されています。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日~2005年5月31日) 印は噴火

2 噴煙の状況

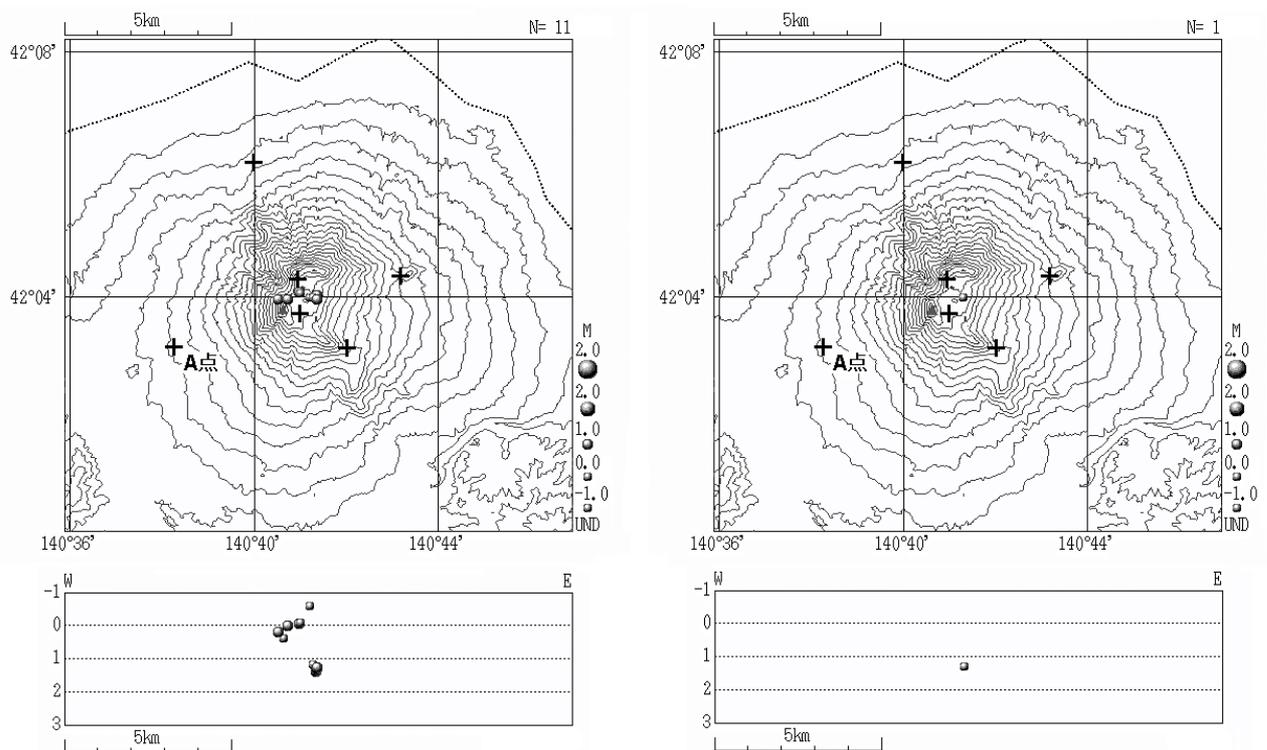
2003年9月以降、昭和4年火口からの弱い噴気がしばしば観測されています。

3 地震の発生状況

今期間、A点で観測された火山性地震は1回で、山頂観測点で観測されるごく微小な地震も少ない状況でした。火山性微動は2001年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数(A点)

2004～2005年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



北海道駒ヶ岳の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

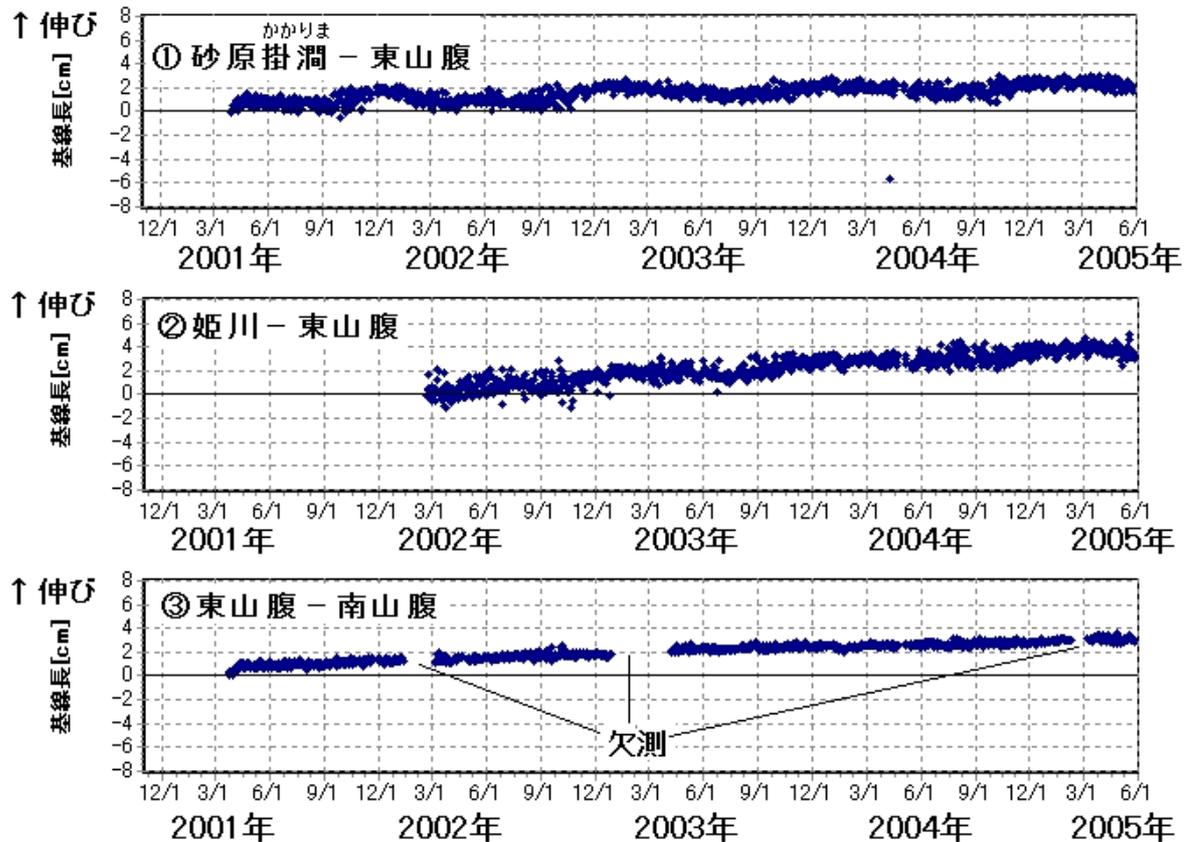
右図は今期間(2005年5月1日～5月31日)に求めた震源を示しています。

左図は前期間までの11ヶ月間(2004年6月1日～2005年4月30日)に求めた震源を示しています。

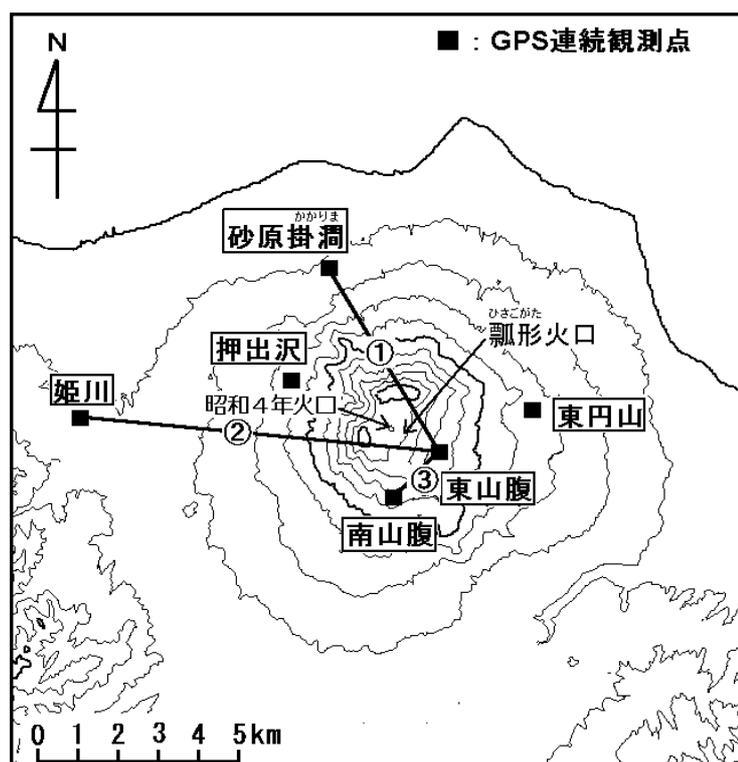
震源は大きく分けて山頂火口原直下の海面付近と、海面下1～2kmに集中しています。

4 地殻変動の状況

GPS連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。



基線長変化(2001年3月23日~2005年5月31日)



5 調査観測の結果

5 月 16～20 日に調査観測を実施しました。昭和 4 年火口の熱活動には大きな変化は見られませんでした。

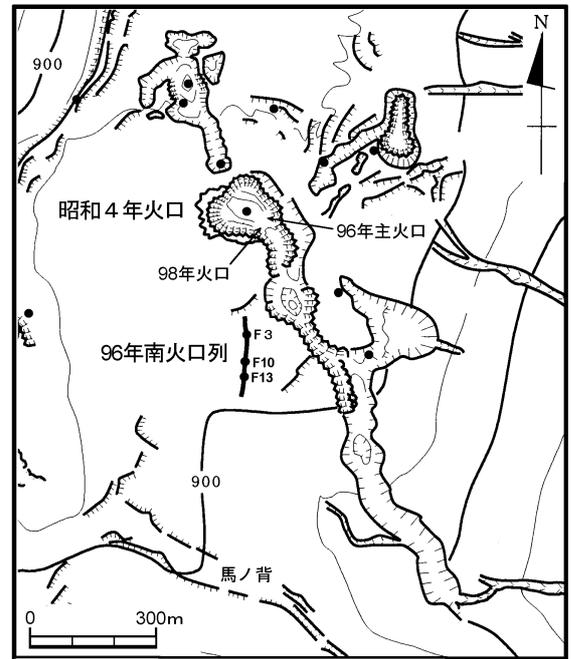
【昭和 4 年火口】

火口内の南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。赤外放射温度計*で測定(測定距離約 120m)した火口温度の最高は約 52 で、前回(2004 年 10 月:約 47)と比べて大きな変化はありません。

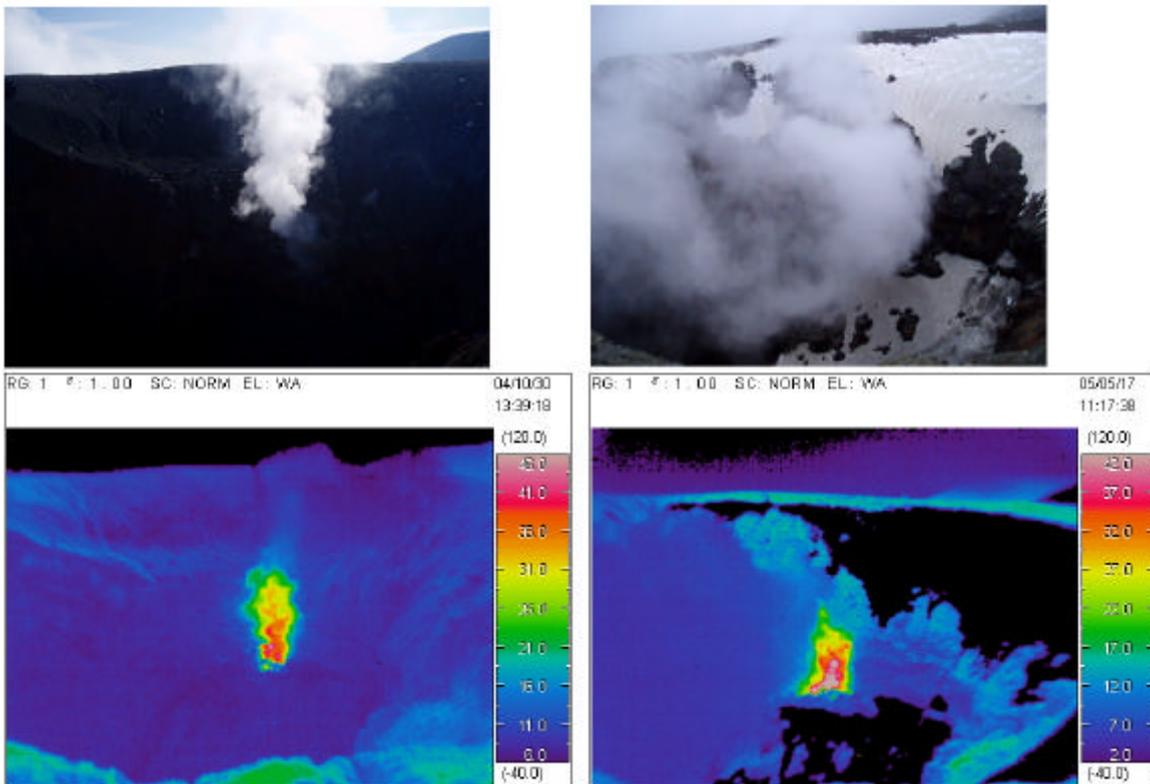
火口温度は 2000 年噴火以降、2001 年に一旦低下しましたが、その後緩やかな上昇傾向を示しています。

赤外熱映像装置*による観測では、南側火口壁の噴気以外に高温域は認められませんでした。

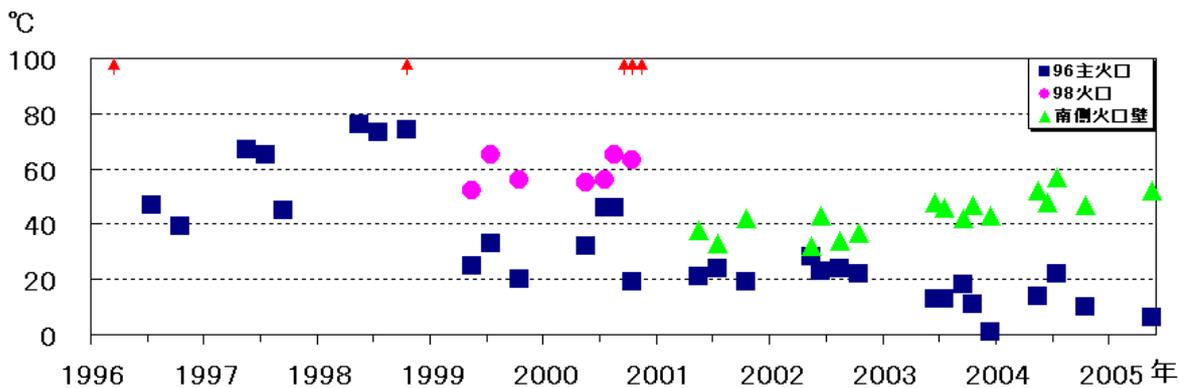
*赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



駒ヶ岳山頂火口周辺図



赤外熱映像装置による昭和 4 年火口の表面温度分布
(左図：2004 年 10 月 30 日、右図：2005 年 5 月 17 日撮影)



赤外放射温度計による昭和4年火口における各領域の最高温度 : 噴火

【96年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南側の噴気温度は低い状態が継続しており、火口列全体で見ると、熱活動は低下した状態が続いていると考えられます。

【その他の火口】

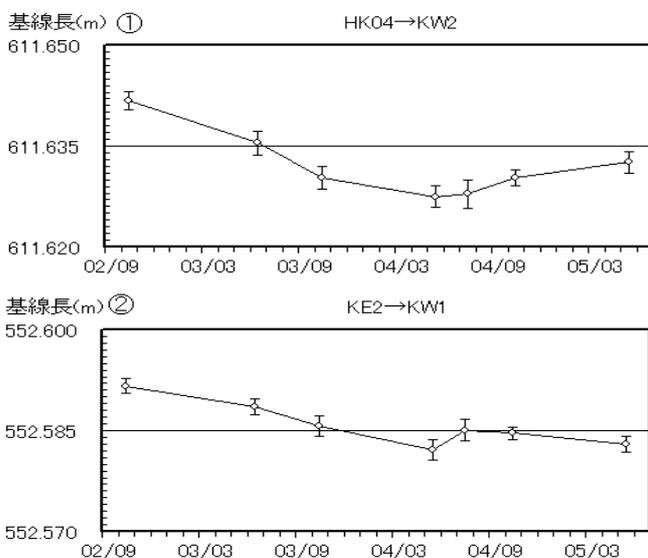
昭和4年火口周辺の瓢形(ひさごがた)火口、繭形(まゆがた)火口、明治火口でも弱い噴気活動が続いています。これらの火口の地熱域が拡大する傾向は見られません。



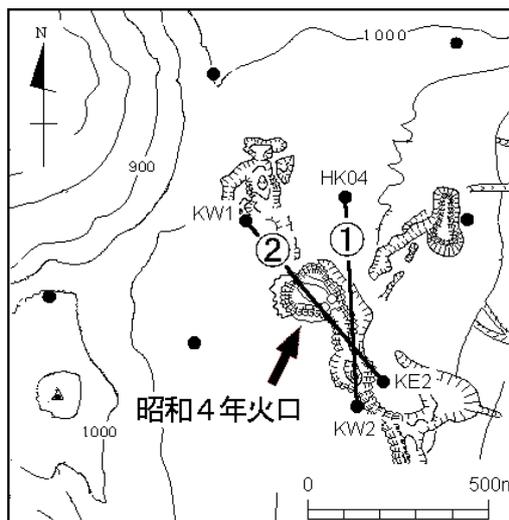
96年南側火口列南側のF13噴気孔

【GPS 繰り返し観測】

GPS 繰り返し観測では、昭和4年火口を囲む複数の基線で続いていたわずかな収縮傾向が2004年には反転し、わずかに膨張する傾向が認められました。今回の観測でも一部の基線を除き、その傾向が引き続き認められています。



昭和4年火口周辺の基線長変化



山頂GPS繰り返し観測点位置